

# 鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2019.5 vol. 157

## 幹部就任のご挨拶

事務部長：河野完治



この度、4月1日付で西別府病院より配置換になりました河野完治(こうのかんじ)と申します。出身は前勤務地の大分県です。鹿児島県での勤務は2回目となります。平成4年7月～平成7年3月まで、今は霧島市立医師会医療センターと名称も経営母体も変わりましたが、前国立療養所霧島病院の給食係長を2年9月間経験しました。米不足で入札どころではなく、隼人町から鹿児島市内までタイ米を買いあさりに来た覚えがあります。また、ここ旧国立南九州中央病院を会場として、宮崎県と鹿児島県との国立病院・療養所事務部合同勉強会があり、お邪魔したのを思い出し懐かしく思っております。当時とは異なり随分建物も増築・改修され綺麗になっているのには少々驚いています。

さて、当院では平成30年4月に鹿児島通信病院との統合を果たし、病床数410床に増床されました。昨今の地域医療構想等では将来の少子高齢化を見越し、医療の機能分化とともに病床数の減少傾向にある中、難しい判断だったと思います。しかしながら早速結果が良い方向に現れ、平成30年度当初は増床工事の関係で患者数確保もままならなかったと聞いておりますが、1日平均患者数は27.5名増加し、本年4月に入ってからさらに新入院・平均患者数も目標を大きく上回っており、少し早いですが、黒字化ももう目の前に見えてきたように感じております。

平成31年度病院目標は、「新病棟建て替えを目指して」です。まずは黒字化。効率性・複雑性を早期に高めることによる収益の安定確保、併せて変動・固定に関係なく何が費用削減出来るのかを追求し実現していきたいと思えます。

さらに病院目標には、地域連携・職員研修・教育の充実化・向上を図るともあり、鹿児島医療センターの気風に早く馴染み、他職種・地域の皆様とも関係を深め、職員一丸となれるよう尽力して参りたいと思えます。

皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

看護部長：村田淳子



4月1日付で菊池病院から配置換えで参りました村田と申します。鹿児島医療センターでの勤務は、三度目となります。平成3年から12年間スタッフ時代を過ごしました。当時は、病院名も「南九州中央病院から九州循環器病センター」と変更された時代でした。その後、平成26年から3年間副看護部長として勤務させて頂きました。この時には、現在の「鹿児島医療センター」に名称が変更になっていました。今回の着任は、2年ぶりです。この2年間で大きく変わっていたのは、鹿児島通信病院の機能移転に伴い、病床数が410床に増加し、さらに診療規模も拡大しパワーアップしていたことでした。

「令和」という新しい時代の始まりに、自分を育ててくれた鹿児島医療センターの看護部長に就任できたことに喜びを感じながら、多くの先輩方が築き上げてきた鹿児島医療センター看護部のブランドを守りつつ、新しい時代に求められる質の高い看護が提供できるよう努力していきたいと思えます。また、看護師一人ひとりが、やりがいと誇りをもって働けるように環境を整え、次世代を担う看護師を育成することが私の役割だと考えています。

これからも地域の皆様方に選ばれる病院づくりに貢献できるよう取り組んでいきたいと思えますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

# 鹿児島がん免疫療法 サポートネットワーク(KISNet) 仮想症例webカンファレンスを開催しました!

がん免疫療法の免疫チェックポイント阻害剤(immune checkpoint inhibitor; ICI)が、多くのがん種で次々と承認されています。ICIは、効果が出た場合には長続きすることが特徴である半面で、多彩な免疫関連有害事象(irAE)が生じることが報告されています。irAEへ迅速に対応して安全かつ効果的ながん免疫療法を提供するためには、多職種・多診療科で横断的なネットワークを作ることが医療者に求められています。当院のような(呼吸器内科医が不在であるように)不完全な総合病院の体をなしている施設では、irAEマネジメントのために施設間での連携が極めて重要となります。2年前に当院が中心となり設立した、鹿児島がん免疫療法サポートネットワーク(Kagoshima Immunotherapy Support Network; KISNet)では、去る3月20日に、irAEマネジメント・情報共有・連携構築を目的として、当院と指宿医療センター、南九州病院、鹿児島厚生連病院の4施設をwebでつないだ合同カンファレンス「KISNet仮想症例webカンファレンス」を開催しました(主催:鹿児島医療センター 共催:NPO法人よりよい地域医療を応援する会)。このwebカンファレンスには4施設併せて70名超の多職種の参加があり、がん免疫療法とそのマネジメントに対する関心の高さが伺えました。田中院長の開会挨拶、皮膚腫瘍科・松下のICIについての概説に続いて、ICIで1型糖尿病を生じた仮想症例と、転院先で大腸炎を生じた仮想症例を時系列で提示し、「こんな時にどう対応するか?」をweb上でディスカッションしました。4施設の様々な職種の立場での対応や、それぞれの施設特有の問題点などについて数多くの意見が出され議論が深まりました。なかでも非常に印象深かったのは、地域医療連携システムの充実に伴って患者さんの紹介は比較的スムーズになりつつあるものの、医療者同士が直接話して連携し合ういわゆる「顔が見える連携」が、システムの充実と裏腹に希薄になっている、という問題点が浮かび上がったことです。施設間でのirAEマネジメントには「顔が見える連携」の推進が必須です。がん免疫療法を受ける全ての患者さんのために、今後は離島を含めた医療過疎地域とのwebカンファレンスなどを通じて、当院が主体となって「顔が見える」がん診療連携の充実や情報共有を進めてまいります。

(文責:皮膚腫瘍科・皮膚科科長 松下 茂人)



## 入学式を終えて

## 独立行政法人国立病院機構 鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校

私たち28回生79名は、4月5日に伝統ある鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校に入学を許可されました。多くの方々のご臨席を賜り、盛大な式を挙げていただき、大変嬉しく感じました。初めは緊張と不安でいっぱいでしたが、入学して数日たった今、新しい仲間と共に学び、成長していけることがとても楽しみです。私たちは、患者さんの思いを尊重し、日々変化する医療に対応できるよう、常に学び続ける姿勢を大切にすることを目指します。そのために、本校の教育理念である「人間愛と探求心を育み、ヒューマンケアの実践者を育成する」という考えに基づいて、看護に必要な知識や技術の習得に努めていきたいと考えています。これから三年間、皆で協力し合い、看護学生としての自覚を持ち、79名それぞれが自分のなりたい看護師像を描きながら、日々邁進していきたいと思いをします。

(文責:鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校1年生[28回生]川村 まみ)



## 新入生セミナーを終えて

私たち1年生79名は、4月16日に鹿児島市立少年自然の家で新入生セミナーを行いました。新入生セミナーの目的は人と人とのつながりについて考え、新しい仲間と親睦を深めることです。セミナーの中で印象に残った活動が2つあります。1つはブラインドウォークです。2人1組のペアになり、1人が目隠し、もう1人が手を引き、誘導しながら施設の周りを探索します。目隠しをしている方は、ペアの人を信頼することで目からの情報に頼らず、不安なく目的地に辿り着けます。誘導する方も、足元や周りの状況を詳細に伝え、不安や恐怖を取り除くことに努めます。この活動で相手を信頼することの大切さを学びました。もう1つは、「愛は国境を越えたか」というワークです。個人の価値観や考え方の違いで、意見を1つにまとめることは難しく感じましたが、他のメンバーの意見を聞いて自分の考えを深めることができました。新入生セミナーで学んだ「相手を信頼すること」や「価値観の違いを理解すること」を活かして、これからも人間性豊かな看護師になれるように努力していきたいと思いをします。

(文責:鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校  
1年生[28回生]鳥井元 鈴那)



# 新任紹介



耳鼻咽喉科  
松崎 尚寛

4月から耳鼻科で勤務させていただいております。松崎尚寛と申します。以前、研修医として勤務させていただいておりましたが、今回レジデントとして再び勤務させていただくこととなりました。まだまだ勉強中の身であり未熟な面も多々あるとは思いますが、毎日少しでも多くのことを学び、早くみなさんのお役に立てるよう頑張りたいと思います。何かとご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



消化器内科  
軸屋 賢一

4月から勤務することになりました。消化器内科の軸屋賢一と申します。鹿児島大学を卒業し、平成18年に鹿児島大学消化器内科に入局し、その後鹿児島県内の関連病院で勤務してきました。鹿児島医療センターには8年前も勤務歴があり、今回で2度目となります。前回とは病院内のシステムが色々変わっており、慣れない面が多々ありますが、少しずつ覚え、早く慣れていけるよう頑張りたいと思います。そして、内視鏡による診断から治療まで幅広く診療させて頂き、より充実した診療が行えるよう頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



消化器内科  
柴田 隆佑

4月より消化器内科で勤務することになりました柴田隆佑と申します。出身大学は関東にある昭和专业で、初期臨床研修も同大学病院にて行いました。2018年に出身地である鹿児島に戻り、鹿児島大学消化器内科に入局しました。今回、鹿児島医療センターでの勤務は初めてになります。趣味は野球(観戦もプレーするの)と音楽鑑賞(特に90年代の洋楽ロック)です。後期研修中でありまだまだ未熟なため、皆様にご迷惑をおかけすることも多々あると思っておりますが、何卒よろしくお願いいたします。



消化器内科  
森内 昭博

4月から勤務させていただきます消化器内科の森内昭博と申します。専門は肝疾患になります。1995年の卒業ですので今年で25年目になりました。長く大学病院に勤務してまいりましたので、一般の病院に勤務するのは17年ぶりくらいになります。戸惑うところも多く、ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思っておりますが、初心に帰って患者さんのために頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。



消化器内科  
前田 拓郎

初めまして。4月から勤務させていただくことになりました消化器内科の前田拓郎と申します。平成16年に鹿児島大学を卒業、初期臨床研修後、平成18年に旧第2内科に入局。前任は今村総合病院に勤務しておりました。専門は消化管、胆膵疾患です。少しでも皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



心臓血管外科  
寺園 和哉

4月より心臓血管外科で勤務させていただくことになりました。寺園和哉です。鹿児島医療センターは2回目の勤務であり、もう一度当院で仕事ができることを非常に嬉しく思います。当院は鹿児島県における循環器治療の中心的施設であり、心臓血管外科医として少しでも貢献できるよう日々努力してまいります。どうぞよろしくお願い致します。



第一循環器内科  
稲津 真穂人

第一循環器科で勤務させて頂くこととなりました稲津真穂人と申します。当院では以前5か月間初期研修をさせていただきました。その後は鹿児島大学病院心臓血管内科に入局し、2019年4月より当院で勤務させていただくことになりました。以前に研修しておりましたが、忘れていたことも多く、経験も浅いため皆様にはご迷惑をおかけすると思っておりますが、当院の一員として鹿児島医療に貢献できるように全力で頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。



第二循環器内科  
園田 幸一郎

2019年4月より第2循環器内科にお世話になる園田幸一郎と申します。当院へは5年ぶり2回目の勤務となります。久しぶりの鹿児島医療センターの勤務でまだ慣れない部分も多々ありますが、少しでも早く慣れて、さらに自己研鑽もできていけるように、努力していきたいと思っております。また専門領域のみならず、内科一般の知識についても深めていきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。



第二循環器内科  
中島 麻里

4月より勤務させていただいております。第2循環器内科の中島麻里と申します。卒業4年目で、昨年は鹿児島大学病院第2内科で勤務させていただきました。今年からは当院に派遣させていただきました。症例、急患が多く、毎日勉強になりとても楽しいです。知識・技術不足、かつ病院のシステムに慣れておらず、皆様にご迷惑をおかけすることが多々あると思っております。少しでも早く仕事を任せられるように勉強していきますので、ご指導の程宜しくお願い致します。



糖尿病・内分泌科  
児島 奈弥

4月から勤務させていただいております糖尿病・内分泌内科の児島奈弥と申します。新しい環境でまだ毎日緊張しておりますが、早く慣れて少しでも患者さんやスタッフのみなさんのお役に立てるような仕事ができるように頑張りたいと思っております。ご迷惑もおかけするかと思っておりますが、御指導の程よろしくお願い致します。



糖尿病・内分泌科  
楠元 公士

4月より糖尿病・内分泌内科レジデントとして勤務させていただくことになりました。糖尿病の血糖コントロールとして診療に携わらせていただく機会が多いかと思っております。メインの治療が円滑に行えるように進進させていただきますので、どうぞよろしくお願い致します。



**脳血管内科**  
**池田 め衣**

4月より脳血管内科で勤務させていただいております池田め衣と申します。研修医時代を過ごした病院にこうやって帰ってくるのができ、とてもうれしく思っております。

去年は大学病院で変性疾患を中心とした神経疾患を勉強させていただきましたが、その経験を少しでも活かしながら、医療センターに恩返しできるような日々頑張っていきたいと思っております。まだ不慣れな点も多くご迷惑をおかけすることもあると思っておりますが、ご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願いたします。



**病理診断科**  
**後藤 正道**

4月から勤務することになりました、病理診断科の後藤正道です。国立ハンセン病療養所星塚敬愛園を定年退職し、病理医としての再出発です。病理医としては10年間のブランクがありますが、努力して最新の知識を吸収し、診断と研究の両面で皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。



**脳血管内科**  
**有水 琢朗**

4月より勤務することになりました脳血管内科の有水琢朗と申します。鹿児島市出身で鹿児島大学脳神経内科に所属しており、鹿児島医療センターへは実に7年ぶりの赴任になります。直近の4年間は大阪と奄美への勤務であり、鹿児島市には久しぶりに戻ってまいりました。脳神経内科は脳卒中から神経変性疾患、頭痛やてんかんといった領域を扱う診療科ですが、当院では急性疾患である脳卒中、痙攣を主に診ております。微力ながら地域の医療に貢献できればと考えておりますのでよろしくお願いたします。

市には久しぶりに戻ってまいりました。脳神経内科は脳卒中から神経変性疾患、頭痛やてんかんといった領域を扱う診療科ですが、当院では急性疾患である脳卒中、痙攣を主に診ております。微力ながら地域の医療に貢献できればと考えておりますのでよろしくお願いたします。



**不整脈治療科**  
**奥井 英樹**

奥井と申します。鹿児島医療センターには2012年度以来の着任となりましたが、今回で3回目になります。主に循環器科関連疾患を対象に診療経験を積んできております。この度は循環器科領域のなかでも不整脈の治療を中心に研鑽に励みつつ、患者さんの苦痛に対応してまいりたいと思っております。いまだ至らない点ばかりで御迷惑をおかけすることも多々あるかと存じますが何卒よろしくお願いたします。



**脳血管内科**  
**高口 剛**

2019年4月より脳血管内科へ赴任した高口剛と申します。2012年より2年間、鹿児島医療センター脳血管内科でお世話になり、福岡への出張などを経て、再び鹿児島医療センター脳血管内科で働かせていただくこととなりました。

しばらくバリバリの脳血管の救急からは離れていた身ですのでご迷惑をおかけするのではと不安も強いですが、様々な方の助力も得ながら、私なりに誠心誠意勤めていこうと意気込んでおりますので、何卒よろしくお願いたします。



**婦人科**  
**恒松 良祐**

2019年4月1日より当院婦人科に赴任いたしました。2015年4月より約3年間指宿医療センターに在籍しておりましたので、鹿児島は2回目になります。専門は婦人科内分泌、女性ヘルスケアです。女性ヘルスケアというのは産婦人科の4つの専門領域のひとつで、思春期から老年期までの女性のトータルヘルスケアを対象としています。簡単に言うと周産期、腫瘍、生殖以外の産婦人科領域、ということになりますが、これらの領域とも密接に絡んでいる分野とも言えます。また臨床遺伝専門医として遺伝医療にも携わって参りました。当院ならびに鹿児島の(産)婦人科医療に貢献できるよう頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。



**泌尿器科**  
**斎藤 朗毅**

4月より勤務することとなりました、泌尿器科の斎藤と申します。出身は鹿児島で、大学・研修も含めて鹿児島から出たことがありません。鹿児島医療センターで勤務させていただくのは初めてで、電子カルテ・診療体制等慣れないことばかりですが、周囲のサポートもあり楽しく勤務させていただいております。

泌尿器科医としての経験も浅く精進の日々ですが、誰かの役に立てるよう頑張っています。泌尿器科疾患でお困りのことがございましたら、いつでも気軽にご相談ください。よろしくお願いたします。



**婦人科**  
**福田 美香**

4月より婦人科で勤務することになりました。約10年前にも当院にお世話になり、2回目の赴任です。これまで、鹿児島大学病院で、腹腔鏡、腫瘍を中心に診療して参りました。

まだ不慣れな点も多いですが、医療センターの一員として尽力したいと思います。ご指導のほど、宜しくお願申し上げます。



**皮膚腫瘍科**  
**杉野 仁美**

4月から皮膚腫瘍科で勤務させて頂いております杉野仁美と申します。産業医科大学を卒業後、実家のある兵庫県で初期臨床研修を行ない、母校の皮膚科に入局しました。1年間の大学勤務を終え、今年から鹿児島医療センターで働かせて頂ける事を非常に嬉しく思います。鹿児島での生活は初めてで緊張しておりますが、先生方やコメディカルの方々が皆さん優しく温かく、働きやすい職場に感動しております。

また医療への熱意ある姿勢に刺激を受け、日々学ばせて頂いております。至らぬ点が多々あると思っておりますが、新しい環境に早く慣れて、皆様と共に医療センターに貢献出来るよう精進して参ります。御指導御鞭撻のほど宜しくお願致します。



**放射線科**  
**神崎 史子**

4月より約1年ぶりに再び勤務させていただくこととなりました、放射線科の神崎史子と申します。前回、勤務させて頂きました時にも循環器疾患や悪性疾患をはじめ、多くの勉強になる症例を経験させていただきましたが、一年ぶりに戻りますと、更に検査件数も増加しており、これまでより一層、迅速でかつ丁寧な読影の大切さを痛感しております。患者様の生活や臨床の先生方のお役に立てる読影ができるように、平木先生、井手上先生のもとで精進していきたいと思います。どうぞよろしくお願申し上げます。



# 不整脈治療科

## 開設

令和元年6月より不整脈治療科が新設されることになりました。新しい改元の年に当科が開設できることを大変光栄に存じます。

不整脈治療は、以前は薬による治療が主でしたが、1980年代から頻脈性不整脈に対しカテーテルアブレーションが行われるようになり、その後大きく進歩してきました。また、突然死の原因の一つである心室細動に対する植え込み型除細動器の登場、心不全治療に両心室ペースング治療の出現と、薬以外による治療法が次々に開発され、多くの患者さんに、恩恵を与えることとなりました。今後も、新しい治療法や、デバイスが開発されていくものと思われます。

当院でもかねてよりカテーテルアブレーション、デバイス治療（ペースメーカ、植え込み型除細動器、両心室ペースング治療）は行っていました。カテーテルアブレーションは、平成23年度109例でしたが、平成30年度340例と飛躍的に増加しました。デバイス治療についても、平成23年度160例から、平成30年度は252例と増加しています。リードレスペースメーカや皮下植え込み型除細動器など、新しいデバイスも開発され、当院でも導入しています。また、デバイス感染などで、デバイス抜去が必要な患者さんへのリード抜去は、当院が本県で唯一の施設となっております。このように不整脈治療に対するニーズが増え、より専門的な治療が求められようになり、当院でも不整脈治療科として開設することとなりました。

今年度より鹿児島大学より奥井秀樹先生が加わり、蔡榮鴻、塗木徳人の3名体制で臨んでいます。開設したばかりで、他の循環器内科の先生方のご協力も仰がねばなりませんので、ご紹介はこれまで通り、特に区別なく「循環器内科」宛でお願いいたします。

循環器内科の一員として、鹿児島の不整脈チームの育成、診断・治療など、皆様のご期待に沿えるよう鋭意努力してまいります。

(文責:循環器内科部長 塗木 徳人)



■お問い合わせ先

独立行政法人  
国立病院機構

**鹿児島医療センター** (心臓病・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 蘭田・丹後田・西辻・吉永・迫田・中田・椎原・吉留・櫻木・田辺・山之内・山口

【がん相談】 松崎・森・水元・原田・久保・杉本・児玉

地域連携室専用 FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

